

キャラクター名
無終 夜海 むつい よみ

プレイヤー名

シンドローム	バロール		ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	バロール			年齢	17	性別
オプション	覚醒	感染	衝動	恐怖	初期侵食率	31 %
出自	結社の一員		経験	純粋培養	邂逅	目標:テレズ・ブルム

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	1	0			1	行動値	8
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	8
精神	4	0	0			4	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:天文学			情報:噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
Collapsed star	RC	8r+2		0		単体 次に受けるダメージ+6D
Star of harbinger 100↑	RC	14r+2		0		単体 次に受けるダメージ+7D
□2回目		0		12D		判定なし 範囲(選) リアクション不可 HPダメージ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
フォーマル					

所持品	
思い出の一品:『Table of stars』	
メモリー:父との会話	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
申し子	P	N		
『Table of stars』	P 遺志	N 不安		
テレズブルム	P 憧憬	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
紡ぎの魔眼	4	1	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	判定の直前 ダイス+Lv個							
開放の宴	1	6	セットアップ	至近	自身	自動	100↑	
効果:	ラウンド間判定ダイス+5 飛行状態							
コアミックインフレーション	1	2	セットアップ	至近	範囲(選)	-	ピコア	
効果:	対象変更							
セレリティ	1	5	メジャー	至近	自身	自動	DDイス	
効果:	2回メジャー行動 HP[Lv-1]消費							
死神の瞳	4	3	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果:	次に受けるダメージ+[Lv+2]D							
時の棺 (命中用)	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果:	相手の判定を失敗にする							
黒星粉碎	6	4D10	メジャー	視界	範囲(選)	自動	120↑	
効果:	[Lv+5]DのHPダメージ リアクション不可							
軽快なる積荷	1							
効果:	物は浮かせて運ぶ							
魔王の玉座	1							
効果:	自分も浮いて移動する							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

一人称:私 二人称:~さん
 喋り方:未定
 その他:宇宙ステーションで生活していたため、虚弱。魔王の玉座を使用して重力に対抗している。大事な本も重たいという理由で浮かせて運んでいる。

「私はハービンジャー。希望になる、それが私の任務です」
 家族がUGN関係者で、やたがらす支部に配属されていたために宇宙ステーションで育った少女。父親がスターダスト部隊の操縦士をやっており、いつか一緒に仕事が出来ないかと天文学や物理学、無線通信技術などを勉強していた。その努力と懇願により、通信士として作戦に参加する許可が下りる。仕事は十分に出来たが、乗員のちょっとしたことで記録がよく注意されていた。分かってはいたが、スターダスト部隊の任務に安全は付いてこない。仲間を失って泣き続ける夜海に対し、父は静かに語った。「人間は星の数ほどいる。星が一つ消えても誰も気が付かないだろう。だからな、お前が記録してやれ。ただ間に消えず誰かの記録に残れる、それだけで希望を抱けるんだ」

『星々の終わりを記録し、皆の希望の先駆けになる』
 これが私の仕事だと胸に刻んだ瞬間であった。

【演出1】
 本を広げるとふわりと浮かび上がり、まるで天球儀のように魔眼を展開する。左手に本を持ち、右手を前へ向けると重力が収縮し、青白い星を作り出す。そして、きらきらと敵の頭上で輝き始める。徐々に星が赤く大きくなっていき、質量に耐えかねて敵へと墜落し超新星爆発を起こす。

【演出2】
 ページがどんどんと捲られていき最後の記述で止まると、ハービンジャーは前を向く。手を上に挙げその先に赤い星を生み出すと、語り始める。